SEMINAR

JNTO発

外客攻略のヒント

本多真綾　JNTOモスクワ事務所次長

vol.110

日常を取り戻しつつあるロシア

昨年末から始まった新型コロナウイルス変異株の世界的な流行に伴い、欧州各国の報道には「外出制限強化」「再ロックダウン」といった厳しい言葉が並ぶ。しかし、ここロシアではだいぶ様相が異なり、日常を取り戻しつつある。

第1波の到来で世界中が混乱の中にあった時期でこそ、ロシアは米国に次ぐ世界2位の感染者数を記録したが、ここ1カ月の新規感染者数は1日1万人未満に抑えられており、4月14日時点での累計感染者数は約466万人で世界5位となっている。ロシア政府は感染拡大の抑え込みよりも経済成長重視の姿勢で、大規模なロックダウンを行ったのは20年3月末～5月上旬のみ。その後は1日当たりの新規感染者数が3万人に迫った年末年始でも厳しい行動制限を課すことはなく、第2波が収束傾向にある現在では、人々はほとんどコロナ禍以前と変わらない日常を送っている。

知事の判断による地域ごとの細かい規制は残っているものの、たとえば政治と経済の中心であるモスクワ市では、ジムや映画館の通常営業はもちろんのこと、1月27日をもってナイトクラブを含む飲食・娯楽施設の深夜営業（23～6時）の規制も撤廃され、レストランの収容割合や出勤人数の制限もない状況だ。また、12月5日からは一般人を含めたワクチンの大規模接種が開始され、病院以外でも市内のショッピングモールやフードコートで気軽に申し込むことができる。

ワクチンの浸透も相まって、人々の生活がコロナ禍以前のスタイルに戻りつつあるなか、旅行業界においても大型を含むオフラインイベントが復活し始めており、ウェビナー等のオンライン事業に疲弊していた業界関係者から好評を博している。3月16～18日には、モスクワ市内の展示場で国内最大級のBtoB旅行博である「モスクワ・インターナショナル・トラベル＆ツーリズム・トレードショー（MITT）」が開催された。28カ国とロシア国内52地域が出展し、サプライヤーは計611人。3日間の延べ来場者数は1万人を超えるという盛況ぶりだった。

MITTでは、いまだ海外旅行が全面解禁されていない状況にあっても、ロシア人の旺盛な旅行需要を取り込もうと、トルコ、ギリシャ、モルディブ、マレーシア、タイなど各国が趣向を凝らしたブースを出展した。会期中にはロシア連邦観光庁主催の業界関係者向けミーティングも開催され、ポストコロナ時代の旅行のあり方について活発な議論が交わされた。4月22～23日にはロシアとCIS諸国における唯一の富裕旅行向け大型商談会「ラグジュアリー・トラベル・マート（LTM）スプリング」も開催され、当所も出展した。

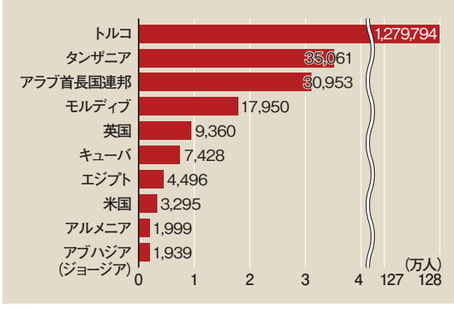
渡航解禁国に観光客殺到

旅行市場に目を向けると、こちらの回復ぶりも堅調だ。あまり知られていないことだが、ロシアは世界6位の国際観光支出国である。JNTOが過去に欧州6カ国を対象に実施した調査では、余暇支出の志向として旅行を選択した人の割合はロシアが最も高く、ロシアの人々にとって旅行は諦めない支出のトップとなっている。コロナ禍でもその志向は変わらず、旅行が解禁された地域から観光客が殺到しているという状況だ。

昨年のロックダウン後、まずは7月に国内旅行が解禁されると、ソチ等の国内主要リゾート地は連日大混雑を極めた。8月からはトルコとタンザニアの渡航解禁を皮切りに、入国時・帰国時ともに自主隔離等の制限がない海外旅行も可能となると、パンデミック以前は注目度の低かった国も含めて、多くのロシア人観光客が訪れた。

3月に開催されたMITTは3日間で1万人の来場者を集めた

●国別ロシア人出国者（20年第2～4四半期／観光目的）



資料：RMAAエージェンシー

当地のマーケティング会社の調査によると、20年のロシアの観光目的の出国者数は前年比69％減の約370万人。パンデミック以降（20年第2～4四半期）の主な出国先は図のとおりとなっている。1位のトルコは以前から人気の高い観光地で、渡航解禁のニュースとともに予約が殺到し、解禁直後の8～9月に同地を訪れたロシア人観光客は約77万人に上った。2位のタンザニアは19年までは10位圏外だったが、早期の渡航解禁で人々の関心が高まり、前年同期の約12倍に当たるロシア人が訪れた。もう1つ注目すべきはモルディブで、モルディブ政府観光局の発表によると、全世界からの観光客のうち、9～11月はロシアからの入国割合が最も高かった。最新のレポートでも、21年第1四半期のロシアからの入国割合は21.3％でインドに次ぐ2位となった。

また、昨年10月に「11月1日以降、日本・キューバ・セルビアへの定期便の運航再開が決定」というニュースが流れると、日本は観光目的での渡航が解禁されていないにもかかわらず、大手旅行比較サイトのスカイスキャナーにおける10月のロシア発日本行き航空券の検索数が前月比で2倍以上になるという出来事もあった。

訪日旅行再開を心待ちに

このようにコロナ禍が続くなかでも、ロシア人の旅行意欲は衰えることはなく、人々は次なる渡航解禁のニュースを心待ちにしている。コロナへの感染を心配して旅行を手控えるという声はあまり聞かれない。特に日本はもともと清潔・安全というイメージがあるため、旅行会社からの問い合わせも国境解禁のめどやワクチンパスポートの導入見込みなど、訪日旅行再開に向けた前向きな内容がほとんどだ。

当所は観光客の受け入れが再開される日まで日本を旅行先として意識し続けてもらえるよう、BtoCとBtoBの両面から継続的な情報発信を行っている。いくつか事例を紹介すると、まずBtoCにおいては、当地の旅行系メディアと連携して「知られざる日本」をテーマにフォトコンテストを実施し、優秀作品40点をモスクワ中心部の大通りに展示するといった取り組みを行っている。さらには、日本在住のロシア人ガイドとインフルエンサーに協力を依頼し、鎌倉や京都等の観光地と中継をつないで訪日旅行を疑似体験するオンラインツアー等を実施した。

BtoBでは、航空会社やホテル等のパートナー企業、または訪日経験のあるロシア人インフルエンサー等をゲストスピーカーに招き、シリーズ形式でのウェビナーを実施したほか、最近では感染防止策を徹底したうえでオフラインセミナーの開催にも着手している。

コロナを恐れず、旅行への意欲を絶やさないロシア人は、ポストコロナ時代において海外旅行市場を牽引する十分なポテンシャルを秘めている。この旺盛な旅行需要を確実に訪日に結び付けることができるよう、引き続きインバウンド関係者と連携しながら、オールジャパンでロシア市場からの誘客に取り組んでいきたい。

（次回は6月21日号に掲載します）